

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
イ ン ド 学 特 論 I	2	教授 後 藤 敏 文	1 学期	火	5
◆ 講義題目	アヴェスタ選				
◆ 到達目標	文献学、歴史文法の具体的方法習得に努める。インド・イラン共通時代の宗教、文化、言語の源流の確認から、インド文明を理解するための研究入門を目指す。				
◆ 授業内容・目的・方法	<p>ゾロアスター教聖典『アヴェスタ』から、ザラスシュトラ自身のことばを含むと考えられる「ガーサー」を取り上げる。ヤスナからはじめ、31へ進む。Geldner, Bartholomae, Humbach, Hoffmann-Forssman, Kellens, Mayrhofer, Grassmann はじめ、基本文献、二次文献を活用できるよう努めること。インド・イラン文献学の諸領域の中でも最高難度の対象である。それだけに緻密な訓練に資すること大であるから、心して参加されたい。</p>				
◇ 成績評価の方法	毎回の授業時に示される能力による。				
◇ 教科書・参考書	コピーを用意する。基礎文献は自明であるが、さらに必要な研究文献にはその都度言及する。Goto, Morphology の原稿を配布する。				
その他：出席者はサンスクリット語文法の初歩知識を有すること。学部学生の先行履修可。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
イ ン ド 学 特 論 II	2	教授 後 藤 敏 文	2 学期	火	5
◆ 講義題目	リグヴェーダ選				
◆ 到達目標	リグヴェーダの講読を通じて、文献学、言語学の具体的方法習得に努める。インドの宗教、文化、言語の源流を確認するための基礎研究入門を目指す。				
◆ 授業内容・目的・方法	<p>インド最古の文献『リグヴェーダ』の研究。第Ⅶ巻を取り上げ、比較的速く読む訓練を心懸ける。Geldner, Grassmann, Mayrhofer, AiG はじめ、基本文献、二次文献を活用できるよう努めること。</p>				
◇ 成績評価の方法	授業時間中に示される能力と学習成果とによる。				
◇ 教科書・参考書	コピーを用意する。基礎文献は自明であるが、さらに必要な研究文献にはその都度言及する。				
その他：出席者はサンスクリット語文法の初歩知識を有すること。学部学生の先行履修可。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
イ ン ド 学 特 論 I	2	准教授 吉水清孝	1学期	火	2
◆ 講義題目	ヒンドゥー教文献講読(1)				
◆ 到達目標	ヒンドゥー教徒にとって馴染みのある神話・伝説をサンスクリット原典で読み、サンスクリット語解読の訓練を積むと共に、ヒンドゥー教徒の宗教的感性と奔放な想像力を理解する。				
◆ 授業内容・目的・方法	『マハーバーラタ』は、王家の争いに端を発する大戦争を描き、そのなかに社会倫理と宗教の全体にわたる教説を盛り込んだ世界最大の大叙事詩である。今学期は、全軍を失ったカウラヴァ百王子の長子ドゥルヨーダナが、武人の名誉をかけてパンドヴァ5王子のビーマと繰り広げる、棍棒による決戦の前半部を講読する。毎回出席者全員にテキスト本文を輪読してもらい、和訳を検討し文法事項を確認する。				
◇ 成績評価の方法	( ) 筆記試験 [ % ] ・ ( ) リポート [ % ] ・ (○) 出席 [30%] (○) その他 (授業での貢献度) [70%]				
◇ 教科書・参考書	コピーを配布する。				
その他：出席者はサンスクリット語文法の初歩知識を有すること。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
イ ン ド 学 特 論 II	2	准教授 吉水清孝	2学期	火	2
◆ 講義題目	ヒンドゥー教文献講読(2)				
◆ 到達目標	ヒンドゥー教徒にとって馴染みのある神話・伝説をサンスクリット原典で読み、サンスクリット語解読の訓練を積むと共に、ヒンドゥー教徒の宗教的感性と奔放な想像力を理解する。				
◆ 授業内容・目的・方法	今学期は、前期に引き続き、『マハーバーラタ』戦争の終局で、カウラヴァ全軍を失ったドゥルヨーダナとビーマとが繰り広げる棍棒による決戦の後半部で、実はヴィシュヌの化身であるクリシュナが介入する場面を講読する。毎回出席者全員にテキスト本文を輪読してもらい、和訳を検討し文法事項を確認する。				
◇ 成績評価の方法	( ) 筆記試験 [ % ] ・ ( ) リポート [ % ] ・ (○) 出席 [30%] (○) その他 (授業での貢献度) [70%]				
◇ 教科書・参考書	コピーを配布する。				
その他：出席者はサンスクリット語文法の初歩知識を有すること。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
イ ン ド 学 研 究 演 習 I	2	教授 後 藤 敏 文	1 学期	月	4
◆ 講義題目	サンスクリット文学選				
◆ 到達目標	サンスクリット文学に関する文献学的・言語的訓練を行う。思想史的背景への理解にも努める。				
◆ 授業内容・目的・方法	インド美文学を代表するカーリダーサの「シャクンタラー姫の物語－想起の場－」を題材とする。第一幕から始める。毎回出席者全員に訳してもらう。合理的に予習と復習とを心がけること。				
◇ 成績評価の方法	授業時間中に示される能力と取り組み方による。				
◇ 教科書・参考書	M. Williams 版に基づく。文法、シンタクスの基本に留意すべく参考書を利用する。				
その他： 出席者はサンスクリット語文法の初歩知識を有すること。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
イ ン ド 学 研 究 演 習 II	2	教授 後 藤 敏 文	2 学期	月	4
◆ 講義題目	ブラーフマナ選				
◆ 到達目標	文法事項（活用、派生法、シンタクス）を点検しつつ、古インドアーリヤ語の習得に努める。祭式を巡るインド思想史の展開にも留意し、基礎知識を学ぶ。				
◆ 授業内容・目的・方法	「ブルーラヴァスとウルヴァシー」の神話を精密に検討する。はじめに、『シャタパタ・ブラーフマナ』の伝承を『リグヴェーダ』X 95を検討しながら取り扱う。余裕があれば、パウダーヤナ版、ヴァードゥーラ版をも取り上げる。古インドアーリヤ語散文文献に関する研究能力を養い、神話や祭式の意義付けの展開を追う。毎回出席者全員に順番に訳してもらう。予習が十分できない場合にも出席してノートを取り、復習に時間を懸けること。				
◇ 成績評価の方法	授業において示される能力と取り組み方を基準とする。				
◇ 教科書・参考書	コピーを用意する。Delbrück, Mayrhofer, Goto (Morphology) を座右に置くこと。Goto, Fs.Narten、および、神子上記念論集参照。				
その他： 出席者はサンスクリット語文法の初歩知識を有すること。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
イ ン ド 学 研 究 演 習 I	2	准教授 吉水清孝	1学期	火	3
◆ 講義題目	インド哲学文献研究 (1)				
◆ 到達目標	サンスクリット語で書かれた学術書の多くは基本典籍の註釈という体裁をとるので、註釈文献の文体に習熟し、あわせてインド思想の諸側面を理解する。				
◆ 授業内容・目的・方法	ヒンドゥー法典を代表する『マヌ法典』には数多くの註釈が書かれた。パールチ（7世紀ごろ）による現存最古の註釈は、前半部分が散逸し後半が現存するのみであるが、最も浩瀚な註釈の作者メーダーティティ（9世紀）により度々引用されている。今学期は、因果の応報としての輪廻の帰趨を説く第12章への註釈前半を扱う。毎回出席者全員にテキスト本文を輪読してもらい、和訳を検討し文法事項を確認する。				
◇ 成績評価の方法	（ ）筆記試験 [ %]・（ ）レポート [ %]・(○) 出席 [30%] (○) その他 (授業での貢献度) [70%]				
◇ 教科書・参考書	コピーを配布する。				
その他： 出席者はサンスクリット語文法の初歩知識を有すること。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
イ ン ド 学 研 究 演 習 II	2	准教授 吉水清孝	2学期	火	3
◆ 講義題目	インド哲学文献研究 (2)				
◆ 到達目標	サンスクリット語で書かれた学術書の多くは基本典籍の註釈という体裁をとるので、註釈文献の文体に習熟し、あわせてインド思想の諸側面を理解する。				
◆ 授業内容・目的・方法	パールチ（7世紀ごろ）による現存最古の『マヌ法典』註釈のうち、今学期は、前期に引き続き第12章への註釈の後半を講読する。この註釈は「最高我」(paramātman)の教説と知行併合論を説きヴェーダーンタ思想史を考える上で重要である。毎回出席者全員にテキスト本文を輪読してもらい、和訳を検討し文法事項を確認する。				
◇ 成績評価の方法	（ ）筆記試験 [ %]・（ ）レポート [ %]・(○) 出席 [30%] (○) その他 (授業での貢献度) [70%]				
◇ 教科書・参考書	コピーを配布する。				
その他： 出席者はサンスクリット語文法の初歩知識を有すること。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
イ ン ド 仏 教 史 特 論 I	2	非常勤講師 吉 水 千 鶴 子	集中 (1)		
◆ 講義題目	中観思想研究				
◆ 到達目標	インド・チベットの中観思想の根幹である「中」の思想を理解する。『中論』18章を註釈書と合わせて講読し、「中」「離辺」の思想を論理との関連で考察する。				
◆ 授業内容・目的・方法	<p>ナーガールジュナに始まり、チベット仏教後伝期初期（13世紀）に到るまでの中観思想史を、主に論理学との融合の過程として概観する。その上で「論理を超えた」中観思想の目指したところとは何か、それが歴史の中でどのように再考されてきたかを、『中論』18章と註釈書の講読を通して考察する。とくに従来知られていなかった11～12世紀のチベット語写本の註釈書をあわせて見ることにより、筆記体写本の読み方と註釈のスタイルを学び、さらにインドからチベットへどのように中観思想が継承されていったのか、その展開を理解する。</p>				
◇ 成績評価の方法	<input type="checkbox"/> 筆記試験 [ % ] ・ <input type="checkbox"/> リポート [ % ] ・ <input type="checkbox"/> 出席 [50%] <input type="checkbox"/> その他（平常点：文献講読時の取り組み方など）[50%]				
◇ 教科書・参考書	教科書は使用しない。文献講読に使用するテキストについては、授業に際して指示する。				
その他：なし					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
イ ン ド 仏 教 史 特 論 II	2	非常勤講師 久 間 泰 賢	集中 (2)		
◆ 講義題目	後期インド仏教文献講読				
◆ 到達目標	<p>(1) 後期インド仏教における思想的状況についての基本的な知識を獲得する。  (2) 実際にテキストを講読することを通じて、後期インド仏教についての理解を深める。</p>				
◆ 授業内容・目的・方法	<p>後期インド仏教の（とりわけヴィクラマシーラ寺院とそこで活躍した学僧をめぐる）思想的状況について概説し、基本的知識を提供する。また、サンスクリット語で書かれた後期インド仏教文献（ヴィクラマシーラ寺院の学僧で、10-11世紀に活躍したジュンヤーナシュリーミトラの著作）を実際に講読することを通じて、授業テーマについての理解を深めることを目指す。</p> <p>1～2回目：後期インド仏教史序説  3～4回目：ヴィクラマシーラ寺院をめぐる思想的状況について  5～6回目：同寺院の学僧ジュンヤーナシュリーミトラの著作と思想的傾向について  7～14回目：ジュンヤーナシュリーミトラの著作の講読（いくつか主要な箇所を抜粋して用いる）  15回目：総括</p>				
◇ 成績評価の方法	<input type="checkbox"/> 筆記試験 [ % ] ・ <input type="checkbox"/> リポート [ % ] ・ <input type="checkbox"/> 出席 [50%] <input type="checkbox"/> その他（平常点：文献講読時の取り組み方など）[50%]				
◇ 教科書・参考書	教科書は使用しない。文献講読に使用するテキストについては、授業に際して指示する。				
その他：なし					